

---

# ウィッヂ

カトラス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ウイッグチ

### 【Zコード】

N1561E

### 【作者名】

カトーラス

### 【あらすじ】

職場で、ある秘密を知つてしまつた彼女に……オカルト長編サスペンスホラーになればと思つております。

## プロローグ

今夜の彼女は、もの凄く怯えていた。

彼女が怯えている理由は、職場である秘密を知つてしまつたからにほかならないからである。

その秘密を知つてしまつてからといつものの、常に誰かに見られているという、言い知れぬ不安感が彼女の体を包み込んでいた。  
(怖い、怖いわあ。このままでは、きっと……殺されてしまう)  
すぐに、「殺されるって大袈裟よ」と、不安に苛む彼女に心の中の声が助け舟を出した。

うんうんと彼女は、誰もいない自室で一人頷いた。

(そうよ、実際、マンションに帰つてくるまで何事もなかつたのだ  
し　　あの入達は私が秘密を知つてしまつたことを知らないわ)  
彼女は、そして心の中の自分と会話して不安を拭い去ろうとした。

気分が少し落ち着いた彼女はソファに座つてテレビの電源を入れようとした。

しかし、テレビの電源は入らなかつた。

(あれえ、故障かしら?)

彼女は、リモコンのスイッチを何度も押した。でも、モニターは真っ黒のまま反応が無い。

彼女が、リモコンの電池を確認しようとした時、携帯電話が鳴つた。

彼女はバッグから携帯を取り出すと電話に出た。

「はい、もしもし」

「今から、お前を迎えに行く」

「はい? どなたなの? 迎えに行くつて何ですか?」

電話の音声は加工されていて、誰なのか、男か女さえもわからな

いものであった。

「分かつてゐるだらう。お前は私達の事を知りすぎてしまつたのだよ！だから……迎えに行くよ」

彼女の頭の中で危険を知らせるアラームが激しくなつていた。  
「誰にも言ひませんよ！仕事もすぐに辞めますので許してください

い

彼女は電話の相手に哀願した。目からは、あまりの恐怖のために涙が溢れ出していた。

「ダメだよ、お前が嗅ぎまわるからいけないのだよ！お前はこれから裁かれる」

彼女が「お願い！助けて」と言おうとした瞬間、電話は切れた。着信履歴を確認すると、電話の相手は知ってる人ものだった。（まさかあ、あの人まで……いい人だと思っていたのに……）

彼女が電話の相手のことを考えていると、突然、室内の照明が落ちた。

真っ暗な闇が、彼女の視界に広がった。

暗闇の中で張り詰めた空気が、まるで音でもあるかのようにツーンと彼女の聴覚に訴えかけてきた。

その時、張り詰めた空気をかき消すかのように、玄関でもの音がした。

その音は、誰かがドアのぶをガチャガチャ回してゐるものであつた。彼女はドアのぶを回す、嫌な音をかき消そつと両手で耳を押さえられる。

幸いにも鍵もかかつてゐし、ドアチャーンもかけている。その間に助けを呼ばないと耳を押さえながら彼女は思った。

暗闇の中で、携帯のモニターから明かりが洩れた。

ふだん、めつたにかけることの無い三ヶタの番号を震える手で押そうとするが、恐怖の為に番号を押し間違えてしまつ。

（落ち着け、落ち着くのよ）

自分にそう言い聞かせて、ゆっくりと順番に番号を押す。残すは

あと〇のボタンだけ……

彼女が最後のボタンを押そうとしたとき、室内の照明が復帰した。テレビの電源も入るうとした瞬間、彼女はテレビの真っ黒のモニターに恐ろしいものを見てしまった。

それは一瞬だが、真っ黒のモニターに映りこむ人影を見てしまつたのだ。

彼女は、すぐに後ろを振り返る。

後ろには、顔がわからないように不気味な仮面を被つた数人の者が立つていた。

「いやあ、やめてえ」

彼女の悲鳴が室内にこだました。

すぐに、仮面を被つた者達の一人が、彼女の口を白い布で塞いだ。彼女の意識はとんでもいった。

もう一人の仮面を被つた者が、彼女の携帯をとつて電話をする。

「はい、今捕獲しました。これから、戻ります」

電話を切ると、仮面を被つた者達は、持参した麻袋に彼女を入れた。

そうして、何事も無かつたかのように、室内の照明を消すとマンションから彼女を連れて出て行つた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1561e/>

---

ウィッヂ

2010年10月10日14時44分発行